科目名	基礎看護技術Ⅳ （診療の補助技術） Fundamental Nursing skills Ⅳ	担当教員 （研究室番号）	米川さや香（208） 川島 珠実（202） 菅原 啓太（204）	教員への連絡方法 （メールアドレス）	

履修年次	2年次 後期	科目区分	専門科目・実践基盤看護学	選択区分	必修	単位数 （時間）	1（30）	授業形態	演習	科目等履修生	否
										ｵｰﾌﾟﾝｸﾗｽ	否

科目目的	診察や検査・治療を受ける対象者に対する看護援助について、科学的根拠に基づき安全・安楽・正確に実施する技術を、主体的な学習により修得する。	
ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ（DP）	主要なDP	F　地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。（技能・表現）
	関連するDP	B　人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。（知識・理解） E　地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。（思考・判断）
到達目標	1. 診療過程における看護者の役割について説明できる。 2. 対象者に合わせた援助方法を選択するために必要なアセスメントの視点が説明できる。 3. 診療過程における看護援助を安全・安楽・正確に実施するために必要な知識と技術を習得できる。 4. 科学的根拠に基づいて看護を実践することの必要性が説明できる。 5. 自ら学習課題を見出し、演習や自己練習に取り組むことができる。	
成績評価方法（基準）	筆記試験（60点）、課題レポート（40点）による総合評価を行う。なお、筆記試験60%以上であり、かつ総合点60点以上の評価であることを単位認定の条件とする。	
再試験の有無と基準等	単位認定の条件を満たさない者のうち、本人からの申請を担当教員が認めた場合、再試験を受けることができる。	
教科書	香春知永，他編：看護学テキストNICE　基礎看護技術，南江堂	
参考書等	村中陽子・玉木キヨ美・川西千恵美編：看護ケアの根拠と技術，第3版，医歯薬出版 福家幸子・千崎陽子・山岡麗：注射・採血ができる，第1版，医学書院 佐藤達夫：注射のための解剖学，第1版，インターメディカ その他、授業の中で適宜紹介する。	
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	診療過程における看護援助は、対象者へ安全・安楽・正確に実施する必要があり、技術の根拠を理解することが重要となります。そのため、形態機能学などで学習した内容を復習し、人体の構造や機能を理解したうえで「なぜそうするのか」「なにが最善の方法か」を追求してもらいたいと考えています。 講義、演習ともにグループで検討することを重視します。また、本科目で取り上げる看護技術は、演習の時間内でしか体験できない技術が多いため、教科書や資料などで技術の根拠や留意点が理解できるよう計画的に学習に取り組んでください。	
備考	授業の一週間前までに、WebClassに授業概要や事前課題（レポート・映像教材視聴含む）や演習資料（演習ノート）等を提示する。それを授業までに各自でダウンロードし、事前準備・予習を行う。 演習前には、個人や演習グループで自分たちが演習で用いる物品を準備する。他に当番制の演習準備と演習後の片付けがあるため、自己の役割を把握し、主体的に取り組む（詳細はオリエンテーションで提示する）。	

回	学習項目	学習内容	主担当教　員	授業方法
1回	オリエンテーション 検査・処置の介助技術①	診療過程における看護援助を安全・安楽・正確に実施することの重要性を理解し、本科目の考え方・学習の仕方について学ぶ。 検査における看護の役割、看護における検査の意義、検査を安全・安楽・正確に実施する方法とその根拠を学ぶ。	米川 川島	講義
2回	感染防止の技術①	感染の要因を理解し、感染症を予防する方法とその根拠を学ぶ。 滅菌物を安全に扱う方法とその根拠を学ぶ。	米川	演習
3回	感染防止の技術②	滅菌物を安全に扱う技術を学ぶ。 滅菌手袋の着脱を安全に実施する技術を学ぶ。	米川、他	講義
4回	検査・処置の介助技術②	静脈採血における看護師の法的責任と看護の役割、真空採血管を用いた静脈血採血を安全・安楽・正確に実施する方法とその根拠を学ぶ。	川島、他	講義 演習
5回	検査・処置の介助技術③	採血に使用する物品を安全に扱う技術を学ぶ。	川島、他	講義 演習
6回	検査・処置の介助技術④	真空採血管を用いた静脈血採血を安全・安楽・正確に実施する技術を学ぶ。	川島、他	演習
7回	与薬の技術①	与薬における看護師の法的責任と看護の役割、安全な薬物の管理方法および効果的な適用方法とその根拠を学ぶ。	菅原	講義
8回	与薬の技術②	注射薬を安全かつ正確に準備する方法とその根拠を学ぶ。 与薬に使用する物品を安全に扱う技術を学ぶ。	菅原、他	講義 演習
9回	与薬の技術③	皮下注射・筋肉内注射を安全・安楽・正確に実施する方法とその根拠を学ぶ。	菅原	講義
10回	与薬の技術④	点滴静脈内注射を安全・安楽・正確に実施する方法とその根拠を学ぶ。	川島	講義

11回	与薬の技術⑤	皮下注射を安全・安楽・正確に実施する技術を学ぶ。	菅原、他	演習
12回	与薬の技術⑥	点滴静脈内注射を安全・安楽・正確に実施する技術を学ぶ。	川島、他	演習
13回	総合演習	事例の対象者に対して、これまで学んだ看護技術を安全・安楽に留意しながら自立に向けて援助する方法を検討する。	米川、他	演習
14回	排泄援助技術Ⅱ①	排尿障害のある対象者への看護援助と、膀胱留置カテーテルを安全に扱うための方法とその根拠を学ぶ。	川島	講義
15回	排泄援助技術Ⅱ②	膀胱留置カテーテルを安全に留置し、排尿を持続させる技術を学ぶ。	川島、他	演習

学　習　課　題

※レポート課題の提出や配点は、別途知らせる。

第1回課題（事前）：検査の実施方法や留意点について、教科書や資料を参考にして理解する。
（事後）：検査時における看護師の責任と役割について自身の考えを論述する。

第2・3回課題（事前）：感染予防の意義と基礎知識について、教科書や資料を参考にして理解する。
滅菌手袋の扱い方について、教科書や資料を参考にして理解する。
（事後）：滅菌手袋の着脱のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。

第4・5・6回課題（事前）：採血可能な静脈の部位と解剖学的特徴を確認する。
（事後）：真空採血管を用いた静脈血採血のチェックリストで、自己の技術を評価し提出する。

第7・8回課題（事前）：薬物療法の基礎知識を復習する。
（事後）：与薬を受ける対象者のアセスメント項目を整理する。

第9・11回課題（事前）：皮下・筋肉内注射の部位と実施方法を確認する。
（事後）：皮下注射のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。

第10・12回課題（事前）：点滴静脈内注射の部位と実施方法を確認する。
（事後）：点滴静脈内注射のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。

第13回課題（事前）：事例の対象者に適切な援助方法について、１～12回の学習内容を参考に整理する。
（事後）：事例の対象者に対する具体的な援助計画を完成に近づける。

第14・15回課題（事前）：排尿のメカニズムについて復習する。
（事後）：膀胱留置カテーテルの挿入・留置の技術のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。